

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 平成 23 年度

事業所番号	2772600587		
法人名	社会福祉法人 三養福祉会		
事業所名	サンホーム桑才		
所在地	大阪府門真市大字桑才159-1		
自己評価作成日	平成 24年 2月 15日	評価結果市町村受理日	平成 24年 3月 29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①看護師、協力医療機関と連携しての健康管理、24時間の医療支援を実施 ②脳の活性化、認知症軽減の為、公文式学習療法を実施 ③朝・昼・夕の食事は毎食作りたてを提供 ④入浴は毎日実施 ⑤日帰りのバス旅行を年1回実施 ⑥リハビリの先生による機能訓練実施 ⑦母体が特別養護老人ホーム

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2772600587&SCD=320&PCD=27
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 24年 3月 2日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、近畿圏域で高齢者施設を開設し発展を続けている社会福祉法人が運営する、3ユニットのグループホームです。ホームには周辺住民や商店街などが協力する「見守りネットワーク」が作られており、地域の温かい理解と支援を受けています。また、同法人運営の特養と連携し、地域交流の機会を多く設けています。利用者の意向を大切にしながら、リサイクル作品作りや物忘れ防止学習療法に取り組み、機能訓練指導員によるリハビリ指導を提供するなど、利用者の心身に配慮した支援をしています。提携医療機関と連携して、医師や看護師が毎日ホームを訪問し、利用者の様子を確認するなど24時間医療連携支援をしています。接遇や感染症予防などの研修にも力を入れ、職員の育成に努めています。食事は3食ともホームで作れ、新鮮な野菜や果物、肉類を使用して栄養バランスにも配慮しています。外出支援に力を入れ、年に1回は日帰りバス旅行を実施し、利用者・家族に喜ばれています。開設後10年を迎え、法人本部との連携も良く質の高いサービス提供を行っているホームです。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の中で自立と尊厳を大切に」を掲げています。職員はお互い確認し意識しながら取り組んでいます。	「地域の中で自立と尊厳を大切に」を理念として、地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念を掲げています。理念は利用者の直筆で清書され、ユニット玄関等に掲示し、共有しています。管理者と職員は毎日ミーティング等で理念を確認し、接遇や自立支援に力を入れて取り組んでいます。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	理美容院、新聞屋等地域のお店を利用することで交流を行い、また事業所の行事や地域の行事を通じ交流を深めています。	地域自治会の協力を得てお祭りなどの地域行事に参加し、小学校の催しにも参加しています。お祭りでは太鼓台がホーム玄関に立ち寄り、利用者に喜ばれています。地域商店街の各店舗、歯科医院、薬局、交番等数十件が同法人施設の「見守りネットワーク」に参加し、利用者の安全確保等の支援をしています。見守りネットワークは、地域の自治会長等が参加する同法人後援会が、運営しています。利用者は、地域ボランティアの協力を得て、リサイクル工作づくり等を楽しんでいます。	ホームでは、事業所の力を活かして地域のより多くの人々に認知症についての理解を深めてもらえるような取り組みをしたいと考えています。地域で開催される催しに参加して、機会があれば認知症についての啓発活動に協力したり、地域から求めがあればホームで実施している学習療法の提供をしたりするなど、具体的な対応を含め検討する予定です。地域での取り組みの成果が期待されます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	地域で主催される催し物に参加及び協力しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議を2ヶ月に1回行い話し合った内容をサービス向上に繋がるよう努めています。	運営推進会議は2カ月に1回、年6回の開催をしています。メンバーには利用者・家族、民生委員、地域包括支援センター職員、当ホーム長が参加しています。議題では参加メンバー紹介、ホーム行事報告、消防設備点検や消防自主訓練について、認知症専門医の往診について、ボランティア行事紹介、インフルエンザ予防接種、介護予防教室主催のファッションショーについて等が出され、意見交換しています。出された意見や提案は、ホーム運営に活かしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	会議には地域包括支援センターの職員にも参加してもらい協力関係を築くよう努めています。	市担当課と相談しながら運営を進めています。ホーム運営や利用者支援について疑問があれば相談しています。また、利用者状況について等情報交換をすることもあります。外部評価結果については、担当課に報告しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束は日ごろより行なわない様心掛けています。玄関に関しては幹線道路に面している為、家族様の要望もあり安全を図るため電気錠にて施錠しています。各階の入り口は常にオープンにしています。</p>	<p>重要事項説明書に「ご利用者に対する身体拘束、その他行動を制限する行為を行いません」と明記し、緊急やむを得ない場合を除き、身体拘束を行わないことを明確にしています。職員は身体拘束をしない支援の重要性を学び実践しています。ユニット玄関には鍵をかけていませんが、1階の総合玄関には「安全確保」を理由に鍵をかけています。利用者が閉塞感を感じないように総合玄関はガラス張りですいつでも外が見えるようになっています。利用者が外へ出たいそぶりをされる場合には、職員が付き添い外出支援をしています。</p>	<p>総合玄関の施錠については、ホーム全体の課題として、今後も検討を続けることが期待されます。</p>
7		<p>○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修、勉強会を通じて学ぶ機会を設け、日中、夜間のケアにおいて虐待防止に努めています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	状況により、必要時には連絡を取り合い協力し、支援を行なっています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に十分な説明を行い理解し納得して頂いています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に直接対話して意見交換を行い、要望にはすぐに対応しています。また施設内に意見箱も設置しています。	家族の来訪時は、職員から挨拶をして利用者の様子を報告し、要望や意見を出してもらっています。年6回開催している運営推進会議に利用者・家族等が参加され、発言される機会があります。ホーム内に意見箱を設置し、利用者・家族の意見を出しやすい雰囲気作りをしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>寮母会議、毎日のミーティングの中で直接話しを聞いたり、時にはアンケート用紙にて尋ねるなど、常に意見を聞ける状況にしています。</p>	<p>管理者は日頃から職員と対話し、意見や要望があれば聞いています。また、職員会議やミーティングで出された意見をまとめ、法人本部へ報告し運営に活かしています。アンケートを実施し職員の意見を直接把握することもあります。職員は法人代表者宛てに手紙を出し、一人ひとりの意見や要望を反映することもできます。職員の意見が反映された最近の事例として、「利用者のADL(日常生活動作)の変化に対応して車イスに座ったまま入浴することができるように設備を改善する」ことがあげられます。</p>	
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>各スタッフの勤務状況等に応じ環境や条件の整備に努めています。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内外の研修を受ける機会を設け各自のスキルアップに努めています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のGH連絡会、大社協のGH定例会等に参加して交流をはかりサービスの質の向上に努めています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前後、面談を行い、詳しく情報を聴き、不安、要望等傾聴しながら本人の安心を確保するための関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前後、面談を行い詳しく情報を聴く事で不安、要望を傾聴し関係を築き上げる様努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前後の面談を行う中で、可能な限り対応する様努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々のケアの中で利用者様の残存機能を発揮して頂く機会を作り相互関係が保てるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃より互いに信頼でき、尊重し合える様、家族様と密に連絡を取りながら、ともに本人を支えて行く関係を築いています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個々に応じて、馴染みの関係の維持に努めています。	面会簿には、友人や知人が訪ねて来られている記録があり、馴染みの関係が継続できている状況です。ホームでは、馴染みのお客様が来られたら歓迎しています。かかりつけ医師や理美容院、スーパーなど、馴染みの場所に向き、関係が途切れないように支援しています。また、余暇活動の企画として暑中見舞いや年賀状、クリスマスカードの作成に取り組み、親族や旧友などに送付しています。電話を使って連絡される場合には、見守りながら必要であれば支援をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の状況に応じできるかぎり孤立しないよう配慮し支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	状況に応じてアフターフォローに努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別に対応していますが困難な場合は行動や表情から思いを察する様努めています。	日常の会話の中で思いを理解したり、個別に話せる時間を設け対話したりして、利用者一人ひとりの思いや願いを把握しています。また、入浴、食事、外出、レクリエーション、リサイクル工作、学習療法の参加など、生活のあらゆる部分で利用者の希望を聞き対応しています。意向を把握しにくい場合には、表情やしぐさで確認するようにしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に生活歴の情報を家族の方より提供して頂き、状況に応じ対応出来る様努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録、医務日誌等に記入し、又ミーティング等にも現状把握に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>3ヶ月ごとに介護計画書の見直し 1ヶ月ごとのモニタリングを行い、 又特変時にはその都度介護計画書 を見直しています。</p>	<p>利用者や家族の意向を把握してサー ビス担当者会議を開催し、介護計画書 を作成しています。毎月モニタリングを を行い、3ヵ月毎に見直しをしています。 また、状況が急変した場合などはその 都度見直しをしています。必要な場合 には家族に参加してもらい、対応につ いて相談しながら進めています。介護 計画書は、利用者・家族に説明し了承 を得ています。介護計画書は職員間で 共有し、実施内容についてもチェック表 等で確認しています。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>情報を共有出来る様に申し送り ノートを作成したり、状態の変化や 気づきを記入し、日々のケアに役立て 担当者会議では検討しあい、 介護計画書の見直しに活かして います。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれ るニーズに対応して、既存のサービスに 捉われない、柔軟な支援やサービスの 多機能化に取り組んでいる</p>	<p>ニーズに応じて柔軟にその時々 に必要な支援を行なう様努めています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じそれぞれの機関と協力しあい、安全で豊かな暮らしを楽しんで頂けるよう支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者、家族が希望される医師及び主治医と密に連携し合い協力しながら支援しています。	入居時にかかりつけ医を確認し、利用者・家族の意向に沿った支援をしています。希望があれば内科、歯科、精神科医師の往診も受けることができ、利用者ニーズに沿ったより効果的対応を行っています。ホームと提携している医師と看護師が毎日利用者の様子を確認し、必要があれば速やかに対応しています。また、機能訓練士の訪問指導も受けることができ、利用者に喜ばれています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同邦人所属の看護師の定時訪問有り。介護職員とも密に報告・連絡・相談を行い支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力病院を設け相談員と情報交換を行いスムーズに退院ができるよう連携に心がけています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階からご本人、家族の意向を伺い状況に応じて、可能な限り、希望に沿った対応が出来る様支援に取り組んでいます。	入居契約時には終末期支援を行う方針であることを説明しています。重度化した場合には、改めて利用者・家族の意向を確認し相談しています。終末期支援を希望される場合には、医師や看護師と相談しながら、ホームで対応できる内容を確認し、利用者・家族の希望に沿えるよう取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年度始めには医務が全職員対象に応急手当や急変時に備えた勉強会を開催して頂いてます。 また緊急対応マニュアルも作成し寮母室に掲示しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防隊協力のもと避難訓練を実施しています。	災害対策マニュアルを作成し年に2回利用者も参加して避難訓練を行い、そのうち1回は消防署の協力を得ています。消火器の使い方やスプリンクラーの定期点検なども徹底しています。ホームは災害時地域避難場所にもなっており、母体法人特養では避難住民の非常食も確保しています。ホームでは一部非常食や水等を確保し、残りは特養で保管しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の尊厳を大切にケアの面においても言葉遣いにおいてもプライドやプライバシーを損ねないよう常に配慮しながら支援しています。	「地域の中で自立と尊厳を大切に」とした理念を基に、接遇を重視し、利用者を人生経験の豊富な高齢者として尊重し、敬う態度や言葉使いをしています。接遇等の研修を行い、新入職員の育成にも力を入れています。排泄介助や声かけの際も「お部屋へ行きましょう」と誘導し、室内のトイレで介助するなどの配慮をしています。個人情報の取り扱いについては、記録等の保管を厳重にすると同時に、職員採用時の契約事項として秘密保持を徹底しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しやすい雰囲気を作り、極力、自己決定が出来る様心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様を最優先に考え個人のペースに合わせ本人の希望に沿うよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性の化粧、男性の髭そり、又理美容院に同行するなど入居者、家族が望まれる様、各個人に合わせ、できない方は職員にて支援し、また外出等の行事の際には身だしなみに注意しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方、望まれる方といっしょに準備や後片付けをして頂いています。又盛り付け等も目で楽しめるよう工夫をしています。	食品会社との提携で毎日1回の食材配送を受けています。冷凍野菜等は使わないように注文し、季節ごとの新鮮な野菜や果物、肉類を使用しています。利用者は調理の下ごしらえや盛り付け、配膳、片付けなど、それぞれが得意なことやしたいことに参加されています。月に1回、お好み焼きなど、利用者の好みの献立で昼食作りを楽しんだり、おやつ作りを楽しんだりしています。月に1回出前を頼み、好きなものを注文したり、レストランを予約して外食を楽しんだりしています。嗜好品としてお酒も楽しむことができます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に1日の状態が把握できるよう食事量、水分摂取量等記録しその方に応じた対応をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後 口腔ケアをおこない夜間は義歯の方は義歯洗浄を行い週一回訪問歯科も行なっており清潔保持に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中 夜間とも個々の排泄リズムに合わせてトイレ誘導を行い自立に向けた支援を行なっています。	利用者一人ひとりの排泄パターンを確認し、極力おむつを使わない支援をしています。入居時におむつを使用しておられた場合でも、職員の声かけ等のサポートでおむつが外れたり、排泄が自立に繋がった事例が多数あります。管理者は職員のスキルを高め、排泄介助が適切に行えるように育成しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々便秘予防の工夫に心掛け、排泄チェック表を元にその都度適切な対応を行なっています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	行事以外の日は毎日入浴ができるよう、準備し本人の希望に沿うよう支援しています。	毎日風呂を沸かして入浴ができるようにしています。毎日のように入浴されている利用者もおられますが、中には入浴を好まれない方もおられ、時間を見て声かけをするなど工夫をしています。職員は無理に誘導せず、楽しい気分で入浴ができるように支援しています。	ホームでは、一人ひとりの介護度に合わせた入浴ができるように入浴設備を改築する予定です。近い将来、車イスのまま入浴できる設備が完成し、利用者が安心して湯船に浸かれる日が来ることが期待されます。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々状況に応じ日中は自由に休んで頂き、また夜間は安眠できるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情をもとに各職員が薬の理解もすることが出来る様状況に応じて安全な服薬支援に努めています。症状の変化や薬の確認においては Dr、看護師の協力を得ています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別に生活歴等を把握し楽しみごと気分転換等、個人の希望に沿った支援を行なっています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	普段の買い物や散歩は職員が同行し遠足 外出での食事、スイーツ等家族の協力も得て行なっています。	天気の良い日には外へ出て、近くの公園や神社を散歩したり、近くのコンビニや100円ショップで買物を楽しんだりしています。また、同法人特養での催しエコパーク(リサイクル工作)に参加したり、毎月のように外食やスイーツを楽しみに出かけたり、家族の協力を得て普段いけない日帰りのバス旅行にも出かけたりしています。また、行きつけの美容院に出かけることもあります。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の能力に応じお金を所持してもらい物を購入時には職員が必ず同行しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話や手紙が自由に行なえるよう個々に合わせて支援しています。入居者様が年賀状や書中見舞いはがきを家族様あてに出され喜んでもらっています。		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の見学時にも環境を見て頂き入居後も居心地よく過ごして貰える様空間を大切に心掛けています。	共用部分は明るくゆったりとしています。窓やベランダからの景観が良く、庭のみかんや無花果が実のを楽しむこともできます。玄関にはリサイクル工作で作ったお雛様が飾られ、季節の雰囲気を楽しめます。ユニット玄関にはイスやソファを置き、利用者が休みながら行動できるように配慮しています。居間にはソファを置きくつろげるようにしています。ホーム内は適切な空調を行い、加湿器を使って過ごしやすい環境づくりをしています。トイレや浴室、脱衣室は広く利用者が複数で入ることもできます。浴室は車いすでも入れるように近く改修する予定です。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の場であっても個人でも仲間同志でも自由に過ごせるように心掛けています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に関しては、極力ご本人 家族の方の希望にお任せしています。	利用者は居室に机やイス、仏壇、タンス、ドレスかけ、テレビ、時計、冷蔵庫など馴染みの家具を置き、手作り作品や写真を飾るなどして、それぞれが個性的で落ち着いた居室にしています。室温は自由に調節することができ、トイレも室内に設置され、快適に過ごせるようになっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	混乱されない様、個人の能力に合わせた安全な環境作りに心掛けています。		